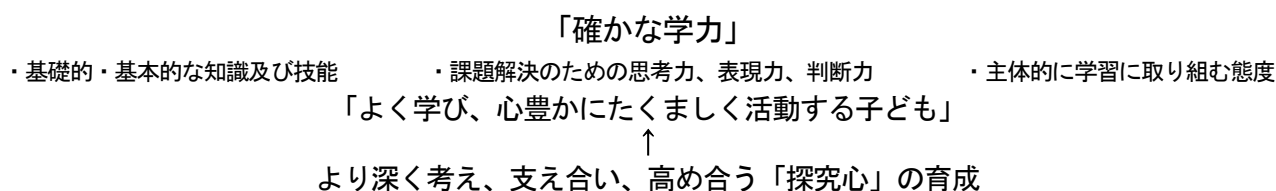


平成30年度 比叡平小学校 学ぶ力向上策

① 本校の「学ぶ力」のとらえかた



② 本校の学ぶ力向上にかかわる課題

<これまでの取り組みから>

- ・平成21年度より、全教科で「聴く、話す」力の育成に向けて、児童同士の意見交流活動を柱として授業改善に取り組んできた。また、児童の主体的な活動を目指して、めあてや課題、ふり返り等を書く、問題解決型のノート指導にも取り組んだ。結果、それらの力や学習態度の向上には一定の成果が表れているが、十分とは言えない。児童がより主体的に学習内容に向き合う手立てが必要である。
- ・基礎学力向上のために、個別指導として「だいらっこタイム（5校時前の帯タイム）」「夏休みだいらっこクラブ」「放課後だいらっこタイム」に取り組んでいる。成果は上がっているが、学習につまずきの見られる児童は未だ少なくなく、さらに適切な指導ができるよう、体制の強化と手立ての工夫に取り組む必要がある。

<全国学力・学習状況調査の結果から>

- ・国語の正答率が高く、特に話す・聞く能力が優れていることがわかった。これまでの「確かな学力」の定着に向けた授業改善の成果が表れていると考える。その他の問題でも、高い正答率を示しているが、算数の数と計算等の一部の問題については、習熟が必要であることがわかった。また、昨年度同様、自尊感情・自己肯定感が低い傾向が見られることから、自信が持てない児童への支援を高めていくことが、本校の課題の一つである。

③ 指導目標（課題へのアプローチ）

1. 児童の探究心を高める授業づくりの追究（教師の授業改善）

◎校内研究会で、児童が学習内容とより主体的に向き合い、より深く考え、支え合い、高め合う、「子どもが主体的に探究する授業づくり」を目指す。具体的には、児童が「自分の考えを話したい、友達のことを聴きたい」と思えるような、導入・課題設定・発問を工夫した授業づくりに取り組む。そうした支持的な風土に基づく主体的な意見交流によって、互いを高め合い、児童一人ひとりの学びを深めていく。

○JITにおいて、若手教員が研究会テーマに沿ったレポートを作成し、常に探究的な学習活動を意識する。

○コミュニティスクールがスタートし、各学年の総合的な学習の時間に地域の特性（森林・外国語・芸術）を活かした学習を予定している。その他の教科でも、地域（環境）を活かした学習内容を考え、実践する。

2. 日常的な聴く力・話す力の育成（学級づくり・児童のスキル向上）

◎道徳科の学習を中心に全教育活動を通して、相手を思いやる心情を育てていく中で、児童同士の主体的な相互交流の土台となる「一人ひとりが大切にされる支持的な学級づくり」に取り組んでいく。

○話型の掲示や聴き方名人など、スキルとしての「聴く力・話す力」を育てる取組を実践する。

3. ノート指導の徹底（児童の思考力向上）

○めあてや課題、ふり返り等を書く探究的な学習型のノート指導に継続して取り組み、思考力、書く力を育てる。

○子どもの力を引き出す自主学習ノートづくりに取り組む。

4. 基礎学力・学ぶ力の定着

◎全国学力・学習状況調査や学び確認テストの結果を分析する校内研修を実施し、授業改善策や学習状況改善策を検討するPDCAサイクルを回す。その中で、学び直しプリント等を活用し、課題に応じた学ぶ力の定着を図る。

○教科学習の時間だけでなく、モジュール「だいらっこタイム」等で、計算や漢字の練習などを繰り返し行う。

5. 「生活・学習ふり返りカード」「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の定着と充実

○「生活・学習ふり返りカード」を学期に1回行って、家庭生活をふり返り、さらなる定着を図る。

○「家庭学習の手引き」をもとに、2年生から自主学習ノートをつくり、家庭学習の充実を図る。